



日本共産党佐々町議会議員

永田かつみの 議会報告

12月議会

高齢者外出支援タクシード成改善へ

12月議会を前後して町は、75才以上の高齢者に支給しているタクシード券を、今年4月から、①月4枚から8枚に増やし、②これまで初乗り運賃を補助していたものを、半額助成としたうえで上限1000円（利用料金2000円）までとする改善案を示しました。

議会前に総務委員会に提案した案では、支給対象者について「自動車を運転しないもの」に限定してしましたが、各議員から「従来どおり全員を対象すべき」との意見があいつぎました。

今回、日本共産党の永田かつみ議員の一般質問に対して町長は「75才以上の町民全員を対象とする」旨を答弁しました。さらに「初乗り運賃無料の部分を持

すべきでは」との質問に対しては、「事務的な問題もあり半額補助1000円まで」との答弁でした。

町内循環バスと組み合わせ、さらなる改善を！

永田議員は、「今回の提案は「一歩前進」だが、「だれでも乗れる循環バス」の内容はまったく含まれていない。全町民を対象とした施策としては、今後どのように考えて行くのか。」と質しましたが、町長は「全

今回の提案によると2000円までの区間については一律半額の支援となり、回数も2倍に増やされることになり、「一歩前進」となりました。

「生理の貧困」を考える

永田かつみ議員は、9月議会に続いて12月議会でも「生理の貧困」問題を取り上げ、佐々町としてできる対応として、小中学校をはじめとした公共施設のトイレに生理用品を設置する事を提案しました。

質問の中で、「女性が一生で経験する生理の回数は戦前は50回程度と言われてきたが、現在は450回と10倍近い回数となっています。婦人科疾患による経済的損失は年間6・4兆

利用できない環境にある方があり、国も生理の貧困を「骨太方針」に初めて盛り込んだ。とりわけ学齢期の子ども達への支援は今後につながる重要なテーマと考える。町長の見解を問う。

町長 生理の貧困をなくすように、町としても努力しなければならないと考えます。

教育長 生理用品のトイレへの設置については、県の教育長会見集会でも話題となったところです。（県下）の全町とも本町と同じく保健室での対応であり、保護者や子どもからの設置要望は、現在のところはな

いとのお話でした。永田 公衆トイレにトイレトパーがないところは、ない不便だからであり、子ども達の声も上がっている。小中学校トイレに生理用品を設置すべきではないか。

まず設置して、「必要なときは使ってください。」「心配なことは保健室などいつでも相談してください」という事をくり返し伝えていくことが大切ではないか。

質問の中で、「女性が一生で経験する生理の回数は戦前は50回程度と言われてきたが、現在は450回と10倍近い回数となつてい

ます。婦人科疾患による経済的損失は年間6・4兆を

ある生理のたびに生理用品を買うお金がなかったり、